健康科学部講演会　開催

「知っておきたい子宮頸がんとワクチンのこと」

キーワード　子宮頸がん予防・HPVワクチン・無料キャッチアップ接種・子宮頸がん検診

○取り組んだきっかけ

2022年4月、厚生労働省は約8年ぶりに「HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチン接種の積極的な勧奨」を再開しました。現在17歳～25歳の女性は、特に接種漏れの多いキャッチアップ世代であり、2025年3月まで、HPVワクチンを無料で接種できます。在校生はキャッチアップ世代にあたり、子宮頸がん予防について理解を深めるために健康科学部講演会を企画しました。

○活動の目的

健康科学部講演会は、キャッチアップ世代でもあり、将来医療の専門家となる学生たちが、子宮頸がんやHPVワクチンについて正しく理解し知識を持つこと、さらに自ら予防行動がとれるようになることを目的としました。

○具体的な内容

2023年7月27日（木）、講師に静岡赤十字病院　第二産婦人科部長の市川義一先生をお招きし、健康科学部講演会「知っておきたい子宮頸がんとワクチンのこと」を開催しました。講演会は水落キャンパスを会場に、対面・オンラインでの同時開催であり、健康科学部の学生と水落キャンパスの教職員が参加しました。

市川先生は、HPVの感染によって多くが発生する、子宮頸がんの成り立ちや治療に伴うQOLの変化など、丁寧に説明されました。さらに、HPVワクチンの有効性やHPVワクチンが他のワクチンと比べて特別に重い副反応が起こりやすいわけではないこと、世界では子宮頸がんよりもHPV感染で発生する男性の中咽頭がんの罹患数の方が多く、HPV感染は決して女性だけの問題ではないことなどを、図や表を使いながらわかりやすく説明されました。

講演会後、多くの質問や感想が寄せられ、学生の感想の中には「副作用が怖いという理由で打つのをためらっていたが、ワクチンと副作用に因果関係がないことがわかったので安心した」、「HPVワクチンを接種する決意が固まった」とありました。また「現在子宮頸がんが増加していること、ワクチンで予防できることなど、自分が理解していることを伝えて、少しでも多く人が子宮頸がんを予防できるようにしていきたいと思いました」など、医療の専門家を目指す学生として頼もしい感想もあり、参加者にとって学ぶことの多い有意義な健康科学部講演会となりました。

○期待される効果

子宮頸がん予防は、HPVワクチン接種だけでは100％予防できるものではなく、HPVワクチンの接種と定期的な子宮頸がん検診が必要です。キャッチアップ世代にあたる学生たちは、HPVワクチンを2025年の3月までに間隔をあけて3回接種する必要があります。今回の学びを活かし自ら考え、HPVワクチンを接種するという、予防行動の第一歩を踏み出すことができること、さらに、HPVワクチン接種の大切さを普及する人材になることを期待しています。

教員名　菊地　美帆
所属学部・学科　健康科学部　看護学科
職位　准教授

連携先
静岡県産婦人科医会　がん対策委員会
静岡赤十字病院　産婦人科